

	課題分析	授業改善策
一年	・「話すこと・聞くこと」の学習では、身近なことや経験したことの理由を話すことができる。一方、話し手が知らせたい事柄を落とさないように聞くことには、課題がある。 ・「書くこと」の学習は、ひらがなについてはほぼ理解できている。簡単な文章は書くことができるが、長音や拗音、促音、助詞等を正しく使うことなどの言語事項の定着には時間がかかる。 ・たし算やひき算の計算は概ね理解しているが、指やブロックなど半具体物を使わないと答えを求められない児童がいる。 ・量の大きさや長さ、図形についての理解はおおむね定着している。	・姿勢や口形、声の大きさや速さを意識して話すことができるように、繰り返し指導する。 ・視写や文を書くときに机間指導などを通して正しく表記できるように指導する。 ・相手意識をもたせ、読み手が読みやすいように句点や読点、助詞の使い方を意識して書かせるようにする。 ・日常的に短い文を書く機会を設け、書くことへの抵抗を減らす。 ・数と計算領域ではブロック操作を十分に行うとともに、図形や測定の場合では、具体物に多く触れさせる。 ・実際に活動する場面を増やし、友達の意見なども聞きながら理解を深めていく。 ・プリント、ドリルで繰り返し練習させることにより、学習内容の定着を図る。
二年	・自分の考えをもてず、伝えようとする意欲に欠けている児童が多い。 ・漢字の習熟に課題があり、まとめのテストなどで点数がとれない。 ・同じ間違いを繰り返すなど定着に時間がかかる児童がいる。 ・算数では、具体物を操作すれば理解できるが、抽象数だけで処理することが苦手な児童がいる。数の概念が身についていない児童もいる。	・ペアで話し合いをさせたり、書く時間を十分にとったり、考えをもてたらサインを送るなど全員が考えをもち発表できるようにする。 ・友達の意見を聞き理解を深めるなど、学び合いの経験を積み重ねるようにする。 ・小テストを細めに行い、ゲーム感覚のテストやご褒美のシールなどを活用し、意欲的に練習できるようにする。 ・具体物やタブレット、デジタル教科書などを活用し、具体物操作から頭の中でイメージして学習へ移る段階を丁寧に指導していく。
三年	・基礎的、基本的な知識（特に漢字や四則計算）の定着が十分でない児童が見られる。 ・言語による表現にすすんで取り組む児童が多いが、課題に正対したり、筋道立てたりして文章を書くことは苦手な児童が多い。 ・全体的に私語が多く、集中力が長く続かない傾向がある。	・モジュールの時間などで漢字や計算の反復学習を行い、基礎的な学力の定着を図る。 ・課題を提示する際にどのようなことを書くのかを明らかにする。また、キーワードや型を示すことで論理的に文章をまとめられるようにする。 ・児童と共に学習計画を立て、見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、一つの学習活動にかかる時間を短くし、児童が集中して学習に取り組めるようにする。

四年	・「聞くこと」において、課題が見られる児童が少なくない。定着している児童と、課題がある児童の基礎的な学力の差が大きい。 ・学習問題を解決するために、知識を活用して自分で考えたり、分かったことを表現したりすることに課題がある。 ・タブレットを操作するスキルは、身に付いている児童が多い。ローマ字入力について個人差がある。	・「聞くこと」において、姿勢を整えさせたり、環境を作ったりする。また、できている児童を褒めるなど「聞く」に焦点化した指導をしていく。 ・基礎・基本の定着を図るために、漢字や計算練習を授業や朝学習、宿題に取り入れていく。 ・思考力・判断力を高めていくために、様々な教科の中で、オクリンク等、タブレットを活用していく。 ・ローマ字入力は、授業や宿題、朝学習等で活用するとともに、短時間で繰り返し取り組むようにする。
五年	・学習課題や学習内容の基礎的な知識・技能が身に付いている児童は多い。しかし、個人差も大きく、個別の支援が必要な児童がいる。特に、文章から題意を捉えることや目的意識をもって書くことが苦手な児童がいる。 ・タブレットを操作するスキルは身に付いている児童が多い。 ・伝え合い活動で友達の意見から自分の考えを高めている姿が見られる。 ・知識を活用して表現したり説明したりする力については課題がある。 ・日本語の理解が十分ではない外国人児童への学習指導には課題がある。	・基礎的な知識・技能を高めるために、算数少人数指導での重点的指導や、家庭学習も活かし繰り返し学習を進め身に付けさせる。 ・書くときに求めたい力を提示し、机間指導やタブレット端末も活用し段階的な指導をしながら取り組みやすくする。 ・授業中、話し合い活動後、考えをまとめて発表する機会を多く設定する。 ・日本語教室担当教諭と情報共有し、個別の学習指導を進め、児童の主体性を高める。
六年	・（全国学力調査から）知識・技能はある程度定着している。しかし、記述式の問題に対して無回答の児童が見られる。 ・基礎的、基本的な知識（特に漢字や四則計算）の定着が十分でない児童がいる。 ・学習課題や学習内容の理解について個人差が大きく、個別の支援が必要な児童がいる。	・意図的・計画的に日々の学習で自分の考えをまとめ記述し表現する活動を設定する。ワークシートやタブレットを使い分けながら文章で表現する機会を設け、記述式の問題への抵抗感を少なくする。 ・モジュールの時間などで漢字や計算の反復学習を行ったり、学習中に個別に指導・支援を行ったりして、基礎的な学力の定着を図る。 ・学習課題などについて、具体的に掲示しておくなど、見通しをもって取り組んだり、視覚的に確認したりできるようにする。